研究ノート

学校資料の調査と活用

－三国南小学校文書を事例として－

田川　雄一*

はじめに
１．福井県文書館で利用できる学校資料
２．三国南小学校文書の調査（令和４年度）
（１）調査に至る経緯
（２）三国南小学校の沿革
（３）資料群の概要
（４）現地調査の内容と結果
３．学校資料の活用
（１）学校資料の価値
（２）教育現場での活用
（３）学校資料の目録公開
おわりに

はじめに

令和４年（2022）は、明治５年（1872）の「学制」発布からちょうど 150 年にあたり、各地で学制 150 年を記念する展覧会が開催された[1)]。福井県文書館においても令和４年６月～８月に、企画展示「地味にすごい！？明治時代の学びと学校」を開催した[2)]（**画像 1**）。展示では当時福井県内で発行・使用された教科書や小学校規則、卒業証書等の「学校資料」を扱った。

画像１　企画展示ポスター

学校資料とは、その名の通り学校に関する資料のことであるが、各分野間できちんと統一された用語・定義ではない。ここでは、学校資料を「学校に所在する（した）資料」として論じていきたい[3)]。

近年、各地で学校の統廃合が進み、学校資料の散逸が危惧されている。こうしたなか、学校で作成・収受される公文書や、学校に集められた地域の資料が注目され、その保存・活用についてさ

＊福井県文書館企画主査

まざまな立場から議論や実践が行われるようになってきた[4]。例えば香川県立公文書館の嶋田典人は、学校の記録資料を組織アーカイブズとしてとらえ、文書・記録のライフサイクルの中で保存・活用されるべきと述べている[5]。また、東京福祉大学の和崎光太郎は、「学校資料の保存と活用」をテーマに、学校資料の校舎での適切な保存方法や、活用のための分類について述べている[6]。

福井県では平成27年度（2015）、２年後の県教育博物館の開館に向けて、教育政策課において県下の小中学校・高校を対象に、歴史的な学校資料の有無、状態、寄贈の可否などが調査された[7]。この調査結果を受けて一部の学校資料は県教育博物館に寄贈・寄託され、保存・活用されている。

当館においては、これまで学校資料に特化した調査・研究はしてこなかったが、令和４年度に坂井市立三国南小学校の資料（三国南小学校文書）について、現地調査および資料目録の公開を行った。本稿ではおもにその成果と課題について述べたい。以下、１では当館で利用できる学校資料の全体像について簡単に触れ、２では三国南小学校文書の概要や現地調査の内容を報告する。最後に３では、「学校資料の活用」を念頭に、教育現場での活用や資料目録の公開について述べる。

１．福井県文書館で利用できる学校資料

表１は、令和４年（2022）12月末現在、当館で利用できるおもな学校資料の一覧である。この場合の「利用できる」資料とは、当館が運営している「デジタルアーカイブ福井」[8]で目録情報を公開している資料のことを指す。

表１　当館で利用できるおもな学校資料（2022年12月末現在）

目録種別	出所	文書の種類（資料群名）	学校資料の概要	文書館所蔵
歴史的公文書	学校	福井県内の県立学校から移管された公文書	職員会議録、校長事務引継書など	あり
古文書	学校	藤島高等学校文書	旧制福井中学校の蔵書など	あり
		坂井高等学校（松平試農場旧蔵）文書	松平試農場が作成した簿冊・刊行物と、収集した蔵書類	あり
	公共施設	武生市立図書館（武生町立高等女学校旧蔵）文書	旧武生町立高等女学校の公文書綴（学校農園関係など）	なし（複製物）
	個人	矢尾真雄家文書 桜井市兵衛家文書 坪田仁兵衛家文書 加藤竹雄家文書 片岡五郎兵衛家文書 奥田与兵衛家文書　など	明治時代に地区の戸長・副戸長を務めた家の文書である。学校資料としては、教科書類や卒業証書が多い。また当時は地域の戸長らが学校運営の中心を担っていたため、学校予算関係や教員の辞令なども一部みられる。	あり（寄託含む）

表１について補足したい。まず県立学校から移管された歴史的公文書に関しては、残念ながらほとんど利用できていないのが実態である。県立学校の公文書は選別対象ではあるが、実際に選別・移管されるものはほとんどなく、これまでに当館に移管された簿冊数はわずか11冊と少ない。これは具体的・客観的な選別基準が定まっておらず、移管元（学校側）の判断で「移管の必要なし」と判断されてしまうことが一つの要因である。

次に古文書のうち「武生市立図書館（武生町立高等女学校旧蔵）文書」は、昭和53年度（1978）から平成９年度（1997）にかけて行われた『福井県史』編さん事業で調査・撮影された資料である[10)]。当館では原本を所蔵しておらず、複製物（モノクロの紙焼き写真の製本）での公開となっている。

表２　県史編さん事業で調査・撮影された学校資料
（2022年12月末現在で目録情報非公開のもの）

資料群名	学校所在地
東郷小学校文書	福井市栃泉町
三国南小学校文書	坂井市三国町山王
武生東小学校文書	越前市国府
惜陰小学校文書	鯖江市日の出町
北谷小学校文書	勝山市北谷町
敦賀西小学校文書	敦賀市結城町
小浜小学校文書	小浜市男山
西津小学校文書	小浜市北塩屋
大野高等学校文書	大野市城町
美方高等学校文書	若狭町気山
若狭高等学校文書	小浜市千種

同事業で調査・撮影された学校資料は他にもあり、**表２**はその一覧である[11)]。これらについても当館で資料の複製物を所有しているが、公開許諾を得ていないため利用できない。この点はほかの近現代の資料においても同様であり、例えば旧村役場文書などについても公開許諾を得ていないものが多い[12)]。

２．三国南小学校文書の調査（令和４年度）

（１）調査に至る経緯

筆者は、令和４年度企画展示の準備をする中で、明治時代の学校沿革誌や当時の授業料領収証、卒業証書などを扱いたいと考えていた。そこで、それらを所蔵している福井県坂井市立三国南小学校に資料の借用を依頼したところ、快諾していただいた。

借用当日、資料が保管されている部屋の中を案内してもらった。驚いたのは、学校資料が展示ケースの中にきちんと並べられた状態で保管されていたことである（**画像２**）。ケース正面には資料の配置図が貼られており、資料はほぼこの通りに置かれていた。

学校によると、現校舎（昭和49年完成）の設計段階から、このような学校資料専用の部屋をつくる構想があったという。なお、資料展示室の隣は「資料室」となっており、そこには指導要録・学籍簿・成績原簿などの簿冊類や卒業写真、さらに昔の農具や山車、紙芝居、50年前の創立百周年記念事業時のタイムカプセルなど、いわゆる「モノ資料」も保管されていた。

画像２　三国南小学校の資料展示室

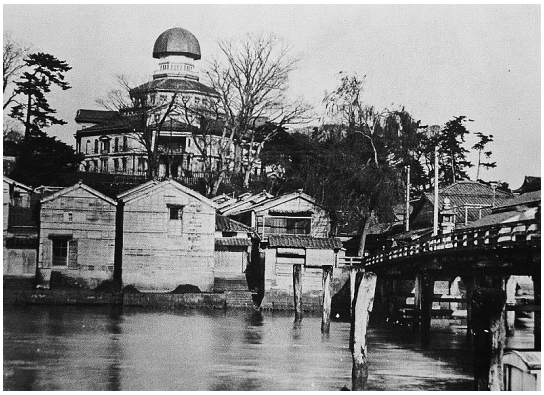
当館としては、福井県史編さん事業で調査・撮影された資料（以下、県史収集資料）66 点の原本の所在とその保存状況が懸念された。同事業における三国南小学校での調査は平成元年（1989）に行われており、既に 30 年以上が経過している。資料室（展示室）内に保管されている資料はあまりにも膨大で、どれが県史収集資料なのかはすぐには判別できなかった。学校に尋ねても、そもそも目録がないため確認のしようがないという。そこで後日改めて、当館が所有する資料目録を基に、対象資料 66 点の所在確認調査を行うことにした。これについての詳細は（4）で述べるが、その前に三国南小学校の沿革と資料群の概要について触れておきたい。

（2）三国南小学校の沿革

ここでは、三国南小学校の沿革について述べる。明治５年（1872）に学制が発布されると、西光寺（三国町南本町２丁目）を学舎とする官立の修齊小学校が創立された[13]。これが三国南小学校の前身である[14]。明治９年（1876）には近隣の二校と合併し、龍翔小学校と改称[15]。この頃から校舎新築の議が起こり、興ヶ岡地区（性海寺所有地、三国町南本町４丁目）で建設工事が始まった[16]。当時の三国湊は北前船による交易が空前の繁栄期を迎えた時代であり、巨額の建設費はすべて地域の有志からの寄付で賄ったという[17]。明治 12 年（1879）に木造五層八角形の校舎が完成し、龍翔小学校（明治 25 年に三国尋常高等小学校と改称）は三国湊のシンボルとして地域住民に親しまれた[18]（**画像３**）。やがて老朽化のため大正３年（1914）に解体されたが、このときに作製された校舎の精巧な模型が現小学校に引き継がれ、現在は県教育博物館で保管・展示されている[19]（**画像４**）。

明治 39 年（1906）、新校舎が中元地区（三国町山王２丁目）に建設された[20]。大正８年（1919）には三好得恵が校長に迎えられ、いわゆる「自発教育」の研究と実践に力を入れた[21]。大正 13 年（1924）にはドルトン・プランの創始者であるアメリカのヘレン・パーカースト女史が参観するなど、大正自由教育の最先端の学校として全国からも注目された[22]。

昭和７年（1932）、前年に発生した火災のため校舎を山上西地区（三国町山王１丁目、現小学校の敷地）に移転[23]。このときに、明治期の興ヶ岡時代の校門（石門）が移築され、現在も正門として使われている[24]。昭和 16 年（1941）には三国南国民学校、昭和 22 年（1947）には三国町立三国南小学校と改称[25]。昭和 48 年（1973）に創立百周年を迎え、『三国南小学校百年史』の発行など記念事業が行われた[26]。なお令和５年（2023）は創立百五十周年の年にあたる。



画像３　龍翔小学校写真

画像４　龍翔小学校模型

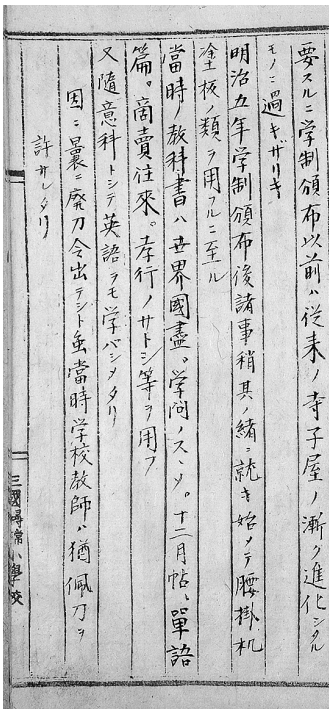
（3）資料群の概要

ここでは、三国南小学校文書の概要について述べる。撮影資料は66点で、大まかな分類は表３の通りである。分類方法については、『学校資料活用ハンドブック』（2019年、京都市学校歴史博物館）を参照した[27]。

表３　三国南小学校文書の資料概要

	分類	資料の例	点数
A	沿革誌	小学校沿革誌	4
B	学校運営	学事報告綴、青年学校職員会記録など	7
C	学籍	休業届、名簿訂正届、通知表	4
D	証書・賞状	授業料領収証、卒業証書など	16
E	学校刊行物	自発教育の研究冊子、論文集など	6
F	図書・雑誌	教科書、三好得恵著書など	13
G	地域	世話方辞令、誉状、三国町誌など	14
H	その他	三好得恵追悼の辞など	2
		合計	66

「Ａ沿革誌」では学校沿革誌が４冊あり、昭和42年（1967）までの内容が確認できる。そのうち１冊目にあたる明治期作成のものは、「学校ノ創立・分合・名称変更及校舎校地ニ関スル事項」「生徒職員及学事当事者ニ関スル事項」「資産経費ニ関スル事項」「教授訓練上ニ関スル事項」の項目ごとに記載されている。「学校ノ創立…」の項目をみると、文久２年（1862）に町の有志によって創設された学問所・斯文館の時代から書き起こしていることがわかる。「教授訓練上ニ関スル事項」では、学制発布当時（明治５年）の状況が詳しく書かれており、「腰掛机」や「塗板」（黒板の前身）が初めて用いられたことや、当時使用していた教科書類が記録されている[28]（**画像５**）。当時の学校教師は廃刀令（明治９年）が出された後も佩刀（帯刀）を許されていたなど、興味深い内容も書かれている。

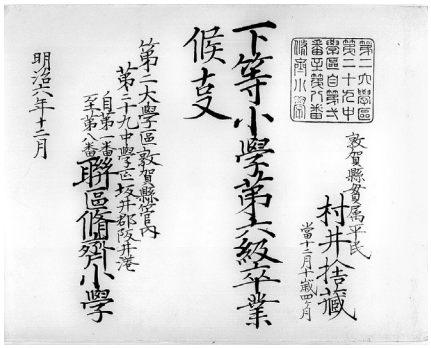

要スルニ学制頒布以前ハ従来ノ寺子屋ノ漸ク進化シタル
モノニ過ギザリキ
明治五年学制頒布後諸事稍其ノ緒ニ就キ始メテ腰掛机
塗板ノ類ヲ用フルニ至ル
當時ノ教科書ハ世界國盡、学問ノスヽメ。十二月帖、單語
篇。商賣往來。孝行ノサトシ等ヲ用フ
又随意科トシテ英語ヲモ学バシメタリ
因ニ曩ニ廃刀令出テシト雖當時学校教師ハ猶佩刀ヲ
許サレタリ
三國尋常小學校

画像５　小学校沿革誌（部分）

「Ｂ学校運営」では大正２年（1913）～昭和31年（1956）の学事報告書の綴や大正６年（1917）作成の小学校校規のほか、５年生の担任が作成した学級経営案がある。また昭和19年（1944）～23年（1948）の三国部青年学校職員会記録は、当時の青年学校の実態を示す貴重な資料である[29]。

「Ｃ学籍」では休業届、名簿訂正届などの学籍に関する諸届のほか、明治27年（1894）～28年（1895）の家庭通告簿（通知表）がある。

「Ｄ証書・賞状」では授業料領収証や卒業証書、種痘証明書などがある。特に卒業証書は明治６年（1873）～８年（1875）の修齊小学校時代のものが7点、明治28年（1895）～31年（1898）の三国高等尋常小学校時代のものが４点確認できる[30]（**画像６**）。名前をみると同一人物のものが多く、おそらく百周年記念事業


下等小學第六級卒業
候支
第二大學區敦賀縣管内
第二十九中學區坂井郡改井庄
自第一番
至第八番
聯區修齊小學
明治六年十二月
敦賀縣貧富平民
村井拾藏
當十二月十歳四月

画像６　修齊小学校時代の卒業証書

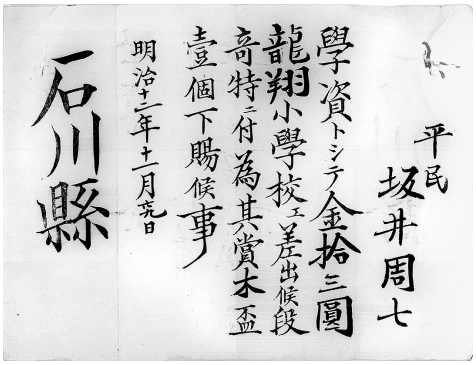
の際にまとめて寄贈されたものと考えられる。

「Ｅ学校刊行物」では教員の論文集（実践録）や、児童の綴方（作文）、自由詩、童謡、短歌などを集めた作品集『力一ぱい』など大正自由教育に関するものが多い。『力一ぱい』は創刊号のほか、大正13年（1924）にヘレン・パーカーストの来校を記念し発行された「パーカースト女史来校号」がある[31]（**画像７**）。

画像７　『力一ぱい』表紙

「Ｆ図書・雑誌」では三好得恵の著書『自発教育案と其の実現』や、吉良信之の著書『ダルトンプランの学的基礎と最近の経験』など、やはり大正自由教育関連が多い。そのほか、昭和18年（1943）～19年（1944）に三国警察署から三国町図書館へ発行された領収証（書籍受取証）がある。「風紀ヲ害スルモノトシテ任意提出ニ係ルモノ」と但し書きがあり、戦時中の図書館への警察の介入を示す資料として大変興味深い。

「Ｇ地域」では明治初期の郷学創立に際しての「世話方辞令」や、龍翔小学校の学資金提供に対する誉状[32]（**画像８**）があり、地域の有志の支援によって学校経営が成り立っていたことわかる。このほか、昭和15年（1940）～18年（1943）の坂井郡教育会の予算関係資料や、戦争末期の昭和20年（1945）７月に行われた坂井連合国民義勇隊結成式の祝辞などがある。


平民
坂井周七
學資トシテ金拾三圓
龍翔小學校ェ差出候段
奇特ニ付為其賞木盃
壹個下賜候事
明治十一年十一月九日
石川縣
画像８　学資金提供に対する誉状

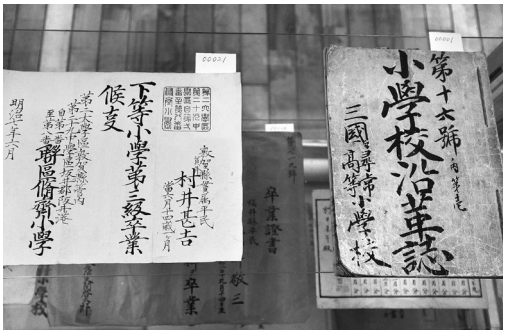
「Ｈその他」では、昭和34年（1959）に亡くなった三好得恵への追悼文や、道徳教育に関する文書（成立年未詳）がある。

（４）現地調査の内容と結果

令和４年11月15日、三国南小学校にて福井県史編さん事業で調査・撮影された資料66点の所在確認調査を実施した。以下、その内容と結果を述べる。

調査者は、筆者を含む県文書館職員３名と県教育博物館職員１名の合計４名である。県教育博物館の職員に入ってもらったのは、学校資料の扱いに慣れていることと、同館に三国南小学校の資料が数点寄託されていること[33]が理由である。

調査のおもな内容は、平成元年（1989）の県史編さん事業の際作成された目録と、資料原本との照合である。さらに正確性を期すため、当館所有の複製物（モノクロの紙焼き写真の製本）を持参し、二人一組で確認作業を行った。確認できた資料には、資料番号の書いた短冊を挟み込み、一目で県史収集資料だとわかるようにした



画像９　資料番号の短冊を挟み込んだ資料

（**画像９**）。

既に（**1**）で述べたように、同校の学校資料はあらかじめ決められた配置図をもとに展示ケースに並べられている。そのため今回の調査では、原則として資料の保管場所を動かさないこととした。ただし展示ケース以外の資料（戸棚に入っているもの）については、分類ごとに整理されていないものも多かったので、学校側の了承を得たうえで資料の移動・整理を行った。また、状態の良くないものについては薄葉紙で保護した（**画像10**）。

画像 10　資料保護の様子

調査の結果、資料 66 点のうち 55 点の所在を確認することができた。多くの資料は展示ケース内で確認できたが、複数の棚に点在している資料もいくつかあった。そこで、それらを１つの棚に集約し、当館が提供した文書箱の中にまとめて保管することにした（**画像 11**）。

画像 11　文書箱に収納した資料

調査終了後、教員数名を対象に調査結果の報告会を行った。その際、学校における資料の保存方法についていくつか助言をした。具体的には、直射日光を当てないように常にカーテンを閉めておくこと、湿気とりや防虫剤を定期的に交換することなどである[34]。また、教育現場での活用のため、保管場所や分類を追記した学校用の資料目録（**表 4**）と当館で保有している資料画像データを提供した[35]。さらに、県内外の地域史研究や教育史研究において広く活用してもらうため、「デジタルアーカイブ福井」での目録情報の公開許諾について依頼したところ、快諾していただいた。これについては次章で詳しく述べる。

本調査は、当館からの要望で実施されたものであったが、資料を管理する学校側にとってもプラスになったようである。特に資料目録や画像データの提供は大変喜ばれた。今後の課題としては、県史収集資料以外の資料の扱いである。明治期の卒業写真や学籍簿関係等、ほかにも興味深い資料は多い。また、校長室に保管されている「龍翔学校」と書かれた松平春嶽の書など、資料室以外にも貴重な資料がいくつか存在している。これらについて新たに目録をとることはしなかったが、今後学校からの要望があれば、可能な限り対応していきたい。

表４　学校側に提供した資料目録（一部抜粋）　※「保管場所」「分類」の欄を新たに追加して提供

資料番号	資料名	保管場所	分類	年代
00001	第十六号ノ内第壱 小学校沿革誌	展示ケース 13	沿革誌	明治 12（1879）
00009	自発教育案と其の実現 三好得恵著	展示ケース 12	図書・雑誌	大正 13（1924）
00012	職員会記録 三国部青年学校	資料室棚（文書箱）	学校運営	昭和 22（1947）
00018	下等小学校六級卒業証（修齊小学）	展示ケース 13	証書・賞状	明治 6（1873）
00023	小学世話方辞令	展示ケース 13	地域	明治 9（1876）
00030	学籍名簿訂正届	展示ケース 13	学籍簿	明治 40（1907）
00033	力一ぱい 創刊号	教育博物館	学校刊行物	大正 13（1924）

３．学校資料の活用

（１）学校資料の価値

学校資料に限らず、歴史資料は「保存」と「活用」双方の視点で考えなければならない。本章では「三国南小学校文書」を例に教育現場での活用や目録の公開について述べるが、まずは前提となる学校資料の価値について先行研究を紹介しておきたい。

東京福祉大学の和崎光太郎は、「学校資料に多元的な価値を見出し、その価値をもとにして保存と活用を進めるための説得戦略を組み立てる技が、学校資料の散逸・廃棄を食い止めるためには必要」としている[36]。

また、京都文化博物館の村野正景や京都市学校歴史博物館の林潤平は、学校資料を文化財の価値体系からとらえて、その多様な価値を**表５**のようにまとめている[37]。

表５　学校資料の価値

資料価値	概要
学校史的価値	学校の年史、沿革、特色、その推移などがわかる
教材的価値	現在の授業や学校活動での教材として利用できる
教育学的価値	教育の変遷や今の教育のあり方を考えられる
部活動的価値	地歴部などの活動を行うための資源となる
地域史的価値	地域の姿や記憶を物語る
学術的価値	考古学・歴史学や民俗学など学問の研究素材となる
学問史的価値	考古学や科学などの学問の歴史がわかる
産業史的価値	教材作成などに携わった産業界のことがわかる
社会関係的価値	資料に関わる人々を連帯し関係構築を促す
アートな価値	学校の美的景観づくりやアートの素材となる
象徴的価値	卒業生や教員、地域住民などの思い出やアイデンティティ、記憶の拠り所、シンボルとなる
個人史的価値	児童・生徒、教員など個々人の人生やアイデンティティの形成史を知る資源になる

注）『学校資料の世界－学校資料ガイドブック－』p.６の表を引用

（２）教育現場での活用

ここでは、特に「教材的価値」や「地域史的価値」を念頭に、三国南小学校の資料および資料室の活用について述べる。校長先生に資料の活用状況について尋ねたところ、同校では『学校だより』に資料を掲載したり、年に１回程度、資料室を授業で活用したりしているとのことであった。

例えば、同校では毎年２学期に３年生の社会科で「三国湊はかせになろう」というテーマの郷土学習を行っているが、その調査活動の一環として資料室を利用しているという。今年度も、令和４年12月15日に実施された[38]（**画像12・13**）。

ただ、実はこのとき資料室内で調査対象となった資料は昔の提灯や山車、紙芝居などの「モノ資料」が中心であり、「三国南小学校文書」のような文献資料の扱いはほとんどなかったという。理由を尋ねると、文献資料はモノ資料に比べると見た目のインパクトが乏しく、小学生が理解するためにはある程度の説

画像12　子どもたちの調査の様子

画像13　校長先生による説明

明が必要であるため、限られた時間の中では扱いにくかったようだ。

それでは、「三国南小学校文書」のような文献資料を効果的に教育現場で活用するには、どのような工夫が必要なのか。ここでいくつか提案しておきたい。

１つ目は、資料のキャプション（タイトルや簡単な説明文）を作成することである。既に述べたように、三国南小学校の展示室には立派な展示ケースがあり、その中に資料が並べられている。しかし、博物館のようなキャプションがないため、どのような資料なのか理解しにくい。このことが、活用を妨げている要因のひとつではないかと考えられる。

キャプションの作成については、専門家（文書館職員や地域の博物館の学芸員など）に協力を依頼するとよい。また、準備・指導が大変ではあるが、専門家の指導・助言の下、子どもたち自身でキャプションを作成していく方法も考えられる。いずれにせよ、キャプションが入ることで、資料の理解が深まり、教育活動でも扱いやすくなるだろう。キャプションが整備された後、将来的には展示室を文化祭や創立記念日などイベント時に開放し、保護者や卒業生、地域住民へ公開することも検討してよいかもしれない[39]。

２つ目は、デジタル画像の活用である。既に述べたように、三国南小学校に対して、当館で所有している資料画像データを提供した。これら画像データを教員が自由に使えるよう共有しておけば、教育活動の様々な場面で活用できるだろう。例えば、『学校だより』など学校発行物での画像掲載も容易になるし、３・４年生の社会や６年生の歴史の授業教材としての活用が考えられる[40]（**表６**）。

さらに、タブレットを用いて児童自身がデジタル上の資料を閲覧していくことも可能になる。展示ケース内では表紙しか見られなかった資料も、デジタルであれば中身を見ることができる。例えば大正 13 年（1924）に発行された児童の作品集『力一ぱい』を読んで、「100 年前の大先輩」が書いた作品に触れることもできるのである。

以上はあくまで提案であるが、今後も学校資料の活用実践を積み重ねてほしい。もちろん当館としても、資料についての補足説明や講師派遣の要望などがあれば、可能な限り対応していきたい。

表６　小学校の授業教材として活用できる学校資料例

学年・教科	単元	三国南小学校文書で活用できそうなもの
３年・社会	市のうつりかわり	学校沿革史、三国町誌、世話方辞令、学資金提供に対する誉状など
４年・社会	きょう土の伝統・文化と先人たち	学校沿革史、三国町誌、世話方辞令、学資金提供に対する誉状、三好得恵関係資料など
６年・社会（歴史）	明治の国づくりを進めた人々	学校沿革史、卒業証書、授業料領収証、種痘証明書、世話方辞令、学資金提供に対する誉状など
その他（国語、総合的な学習の時間など）		『力一ぱい』（児童の作品集）など

（3）学校資料の目録公開

令和５年1月 25 日、「デジタルアーカイブ福井」において三国南小学校文書の目録情報を公開した。明治～昭和期にかけてのまとまった学校資料の目録公開は、当館では初めてのケースとなる。

公開前に、資料に掲載されている個人情報の確認作業を行った。「福井県文書館が保存する文書等の一般の利用に関する要綱」第２条別表の基準に従って、複数の職員で確認したところ、問題のある箇所は見られなかった[41]（**表７**）。

では、「デジタルアーカイブ福井」で目録情報を公開したことで、どのような効果が期待されるのか、改めて整理しておきたい。１つは、資料の幅広い活用につながることである。これまで三国南小学校の学校資料のうち、大正自由教育関係の資料が活用された実績はあるが[42]、それ以外の資料についてはほとんど知られていなかった。今回目録情報を公開したことで、明治初期～戦後まで様々な時代・分野の資料の存在が広く知られることになる。したがって、これまで以上に多様な研究分野からのアプローチが可能となるだろう[43]。

もう1つは、資料原本の保護につながるということである。これまでは、学校に保管されている資料原本を直接閲覧するしかなかった。遠方に貸出されることも何度かあったようで、資料の損傷･紛失のおそれがあった。今後は複製物、もしくは文書館内端末での閲覧（**画像 14**）が中心となるので、そのようなリスクはかなり軽減されるだろう。

表７　個人情報の性質による利用制限基準

文書等に記録されている個人に関する情報の性質	該当する可能性がある情報の類型の例	利用を制限する期間
個人の秘密であって、当該文書等を利用に供することにより、当該個人の権利利益を不当に害するおそれがあるもの	1　学歴、職歴等 2　財産、所得等 3　採用、選考、任免等 4　勤務評定、服務等	５０年
個人の重大な秘密であって、当該文書等を利用に供することにより、当該個人の権利利益を不当に害するおそれがあるもの	1　国籍、人種、民族等 2　家族、親族、婚姻の有無等 3　信仰、思想等 4　伝染性の疾病、身体の障害その他の健康状態等	８０年
個人の特に重大な秘密であって、当該文書等を利用に供することにより、当該個人およびその遺族の権利利益を不当に害するおそれがあるもの	1　門地 2　遺伝性の疾病、精神の障害その他の健康状態等 3　犯罪歴、補導歴等	８０年以上

画像 14　「デジタルアーカイブ福井」の画面
（当館閲覧室の端末では資料画像を閲覧できる）

おわりに

本稿では「学校資料の調査と活用」というテーマで、令和４年度の取り組みを中心に述べてきた。

本研究を通してみえた成果と課題についてまとめたい。

成果としては、まずは現地調査によって「三国南小学校文書」の保管状況を確認できたことである。これまで、福井県史編さん事業で調査した学校資料（**表２**）について、正確な実態調査はできていなかった。今回の調査が、今後の当館における学校資料の調査のモデルケースとなることは間違いないであろう。

「デジタルアーカイブ福井」において資料目録を公開できたことも大きい。今回のようなまとまった学校資料の目録公開は、当館では初めての取り組みであり、教育史・地域史など様々な分野で幅広い活用が期待される。

そして最も大きな成果は、三国南小学校と新たな関係が構築できたことである。当館とのやり取りの中で、資料の保存や活用に関して学校側の意識も少しずつ変わってきたようである。当館としても、可能な限り協力していきたい。

今後の課題としては、大きく２つある。１つは、福井県史編さん事業で調査した学校資料（**表２**）の原本調査と活用である。今回の事例を生かすためにも、できるだけ早めに実施していきたいが、学校側に丁寧に説明し、理解を得たうえで進めていくことが重要である。

２つ目は、県立学校の公文書の評価・選別の再検討である。**1** で述べたように、県立学校の公文書においては具体的・客観的な選別基準がなく、これまで実際に選別・移管されたものはほとんどなかった。しかし、本当に残すべき（移管すべき）文書はないのだろうか。また、残すとしたら何を残すべきなのだろうか。いま改めて評価・選別について見直し、具体的・客観的な基準を策定すべきだと考える。学校の重要な公文書がいつの間にか廃棄されてしまった、という事態だけは避けなければならない。

最後に、本稿を通して、三国南小学校文書や、福井県の学校資料の保存・活用について少しでも関心を持っていただけたら幸いである。

〔付記〕本稿の作成にあたり、多和田真理子氏（國學院大學准教授）、林順平氏（京都市学校歴史博物館学芸員）にご教示いただいた。また三国南小学校には、資料調査・画像利用等でご協力いただいた。深く謝意を表したい。

注

1) 文部科学省の「学制 150 年記念展示」（2022 年 9 月 1 日～ 30 日）のほか、高知県立公文書館の「学校資料から見える世界」（2022 年 7 月 15 日～ 9 月 26 日）、岐阜県歴史資料館の「学制 150 年　岐阜の学校事始め」（2022 年 10 月 11 日～ 11 月 25 日）など、全国各地で学制 150 年を記念する展覧会が開催された。福井県では、県教育博物館による特別展「学校 150 年物語」（2022 年 8 月 2 日～ 2023 年 1 月 29 日）が開催された。

2) 令和４年度福井県文書館企画展示「地味にすごい！？明治時代の学びと学校」（2022 年 6 月 24 日～ 8 月 23 日、https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/fukui/08/2022exhb/2022exhb/2022exhb.html）。URLは 2023 年 1 月 11 日閲覧。

3) 地方史研究協議会編『学校資料の未来－地域資料としての保存と活用－』、岩田書院、2019 年、p.6。なお、「学校資料研究会」（事務局：近畿大学教職教育部　冨岡勝研究室内）では、「学校資料とは、学校に関するあらゆる

資料のことである。現在学校にあるものに限らず、学校外にあるものも含む。文書や公文書類、写真、教科書、考古資料、民俗資料、美術工芸品、教材教具、標本、児童・生徒の作品、P.T.A.や部活動に関するものまで、実に幅広いバリエーションがある。教育的、芸術的、歴史的、精神的に高い価値をもつとともに、個人情報も含む大変デリケートな資料である。」としている（https://gakkoshiryo.jimdofree.com/)。URLは2023年１月11日閲覧。

4) 学校資料に関するシンポジウムの例として、「学校資料の活用を考える　学校資料の価値と可能性」(2019年３月10日、京都市学校歴史博物館)や、「高知県の学校資料を考える」(2019年12月７日、高知県立高知城歴史博物館)などがある。その他最新の動向については、「学校資料研究会」のＨＰ内の「学校資料新着情報」を参照されたい(https://gakkoshiryo.jimdofree.com/%E6%96%B0%E7%9D%80%E6%83%85%E5%A0%B1/)。URLは2023年１月11日閲覧。

5) 嶋田典人「学校組織文書と公文書館－学校アーカイブズの視点から－」（前掲『学校資料の未来－地域資料としての保存と活用－』、pp.11-29)。

6) 和崎光太郎「学校資料の保存と活用－その現状と課題－」（前掲３『学校資料の未来－地域資料としての保存と活用－』、pp.105-122)。

7) 柏谷秀一・白﨑徹・松村愛「魅力ある博物館運営を目指して－博物館から本県教育の特色や魅力を全国に発信－」(『福井県教育総合研究所 紀要 第123号』、2018年)。

8)「デジタルアーカイブ福井」とは、福井県文書館と福井県立図書館、福井県ふるさと文学館の３館共同の資料検索システムである。福井県の地域資料の総合的なデジタルアーカイブを目指しており、上記３館以外にも県内複数の資料保存利用機関が参加。資料の目録情報を中心に、一部資料についてはデジタル画像を公開している。資料目録の公開件数は約56万9,000件、うち画像を公開しているものは約48,000件（2023年１月11日時点)。

9)「福井県文書規程」第65条１には「保存年限が到来した完結文書等のうち文書館長が歴史的価値を考慮して指定したものは、文書館に移管しなければならない。」とあるが、具体的な移管の基準はない（「福井県教育委員会文書規程」も同規程に準じて定められている)。また、「福井県文書館における文書等の収集および保存に関する要綱」第３条別表１に「公文書選別収集基準」が15項目定められているが、教育や学校関連の項目はない(『福井県文書館年報 第19号』、2022年、p.41)。

10) 福井県史編さん事業についての詳細は、当館ホームページの「古文書資料目録活用のために」を参照されたい(https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/bunsho/category/komonjokatsuyou/478.html)。URLは2023年１月11日閲覧。

11) 当館ホームページ内で公開されている、「未整理資料群一覧（県史収集資料)」を加工して作成した(https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/bunsho/category/komonjokatsuyou/482.html)。URLは2023年１月11日閲覧。

12) 前掲11「未整理資料群一覧（県史収集資料)」。

13) 三国南小学校百年史編集委員会編『三国南小学校百年史』、1973年、p.18・p.162。

14) 小学校創立以前まで遡ると、文久２年（1862）に町の有志によって創設された学問所・斯文館が前身とされている（前掲13『三国南小学校百年史』、p.18)。

15) 前掲13『三国南小学校百年史』、p.162。

16)『三国南小学校百年史』では「龍翔小学校はオランダ人技師エッセルによって設計された」と記載されているが、そのことがわかる当時の記録は残されていない。ただ、エッセルは同時期に三国港を訪れ、湾改修工事の設計を行っている（みくに龍翔館第26回特別展図録『藩校・私塾・寺子屋と近代教育への歩み－坂井市域の教育史から－』、2012年、p.29）。

17）前掲13『三国南小学校百年史』、p.24。

18）前掲13『三国南小学校百年史』、p.22・p.165。**画像３**は「福井県教育博物館デジタルアーカイブ」より。

19）前掲13『三国南小学校百年史』、p.25。**画像４**は「福井県教育博物館デジタルアーカイブ」より。

20）前掲13『三国南小学校百年史』、p.33。

21）前掲13『三国南小学校百年史』、p.37。

22）前掲13『三国南小学校百年史』、p.37。

23）前掲13『三国南小学校百年史』、p.57。

24）前掲13『三国南小学校百年史』、p.25・p.59。

25）前掲13『三国南小学校百年史』、p.65・p.75。

26）前掲13『三国南小学校百年史』、p.181。

27）村野正景・和崎光太郎編『みんなで活かせる！学校資料－学校資料活用ハンドブック－』、2019年、京都市学校歴史博物館、pp.114-121。

28）三国南小学校文書「第十六号ノ内第壱 小学校沿革誌」、福井県文書館資料番号C0094-00001。

29）青年学校とは、昭和10年（1935）の青年学校令によって設立された勤労青年のための中等教育程度の定時制の学校である。福井県では昭和10年４月、「青年学校施行細則」（県令第一二号）を定め、年度末までに218校が設置された。有資格の専任教員はわずかであり、大多数は小学校教員の兼務であった（『福井県史』通史編６、近現代二、1996年、p.154）。

30）三国南小学校文書「下等小学校六級卒業証（修齊小学）」、福井県文書館資料番号C0094-00018。

31）三国南小学校文書「力一ぱい パーカースト女史来校号」、福井県文書館資料番号C0094-00034。

32）三国南小学校文書「龍翔小学校学資差出ニ付木盃下賜状 石川県」、福井県文書館資料番号C0094-00044。

33）福井県教育博物館には、三国南小学校文書のうち「力一ぱい 創刊号」、「種痘済証」など７点が寄託されている。

34）前掲27『みんなで活かせる！学校資料－学校資料活用ハンドブック－』、pp.110-114を参照し助言した。

35）資料目録および画像データ（JPEG形式、約3,800画像、容量約3GB）をUSBメモリに格納して提供した。

36）前掲６「学校資料の保存と活用－その現状と課題－」、p.109。

37）村野正景「はじめに」（前掲27『みんなで活かせる！学校資料－学校資料活用ハンドブック－』、p.6）、林潤平『学校資料の世界－学校資料ガイドブック－』、京都市学校歴史博物館、2022年、p.9。

38）**画像12・13**は三国南小学校より提供。

39）学校資料室の活用についての実践は、羽毛田智幸「学校資料をどう伝えるか－横浜市内の活用事例から－」（前掲３『学校資料の未来－地域資料としての保存と活用－』、pp.67-88）や実松幸男「地域博物館と学校資料」（同書、pp.89-104）を参照されたい。なお、羽毛田実践で紹介されている横浜市立柏尾小学校は、毎月第１土曜日に郷土資料室を一般公開している（https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kashio/index.cfm/1,0,45,html）。URLは2023年1月11日閲覧。

40）**表６**は前掲 37『学校資料の世界－学校資料ガイドブックー』を参考に作成。なお、単元名は福井県内のすべての公立小学校で採択されている東京書籍の教科書に準拠した。

41）「三国南小学校文書」66 点のうち作成年度が昭和 16 年（1941）以降の資料 11 点を対象に、４名の職員で分担して複製物（紙焼き写真の製本）を１ページずつめくっていき確認した。

42）朝倉充彦「大正新教育における初等教育の教育方法改革」（『仙台白百合女子大学紀要第 16 号』、2012 年、pp. 1-12）や、鈴木和正「近代教育制度と大正新教育運動－教育学における諸概念の検討を中心に－」（『教育研究実践報告誌　第１巻第１号』、常葉大学教育学部初等教育課程研究企画部会、2017 年、pp. 33-42）などで三国南小学校の資料が活用されている。

43）なお、本資料のような県史収集資料の問い合わせ先は当館（福井県文書館）となっているため、公開によって学校側の事務負担が増えるということはそれほどないと考えている。ただし、「三国南小学校文書」の画像を書籍・印刷物等に掲載する場合は、当館への申請に加えて所蔵者（三国南小学校）の承諾を得る必要があるため、その際に学校側が対応することになる。

C0094　三国南小学校文書　資料目録　※紙幅の関係で項目を一部省略している

番号	形態	年月日（西暦）	資料名	差出人作成者	宛名
00001	綴	1879 年	第十六号ノ内第壱 小学校沿革誌	三国尋常高等小学校	
00002	綴	1912 年	第拾六号ノ内第弐 学校沿革誌	三国尋常高等小学校	
00003	綴	1920 年 4 月	自大正九年四月 至昭和廿四年三月 学校沿革誌	三国尋常高等小学校	
00004	綴	1949 年	学校沿革誌 第四冊	三国南小学校	
00005	綴	1913 年	自大正二年度 至昭和三十二年度 学事報告綴	三国尋常高等小学校	
00006	綴	1912 年	図書目録	三国尋常高等小学校	
00007	綴	1911 年 4 月 1 日	自発教育概要	三国尋常高等小学校	
00008	綴	1918 年	論文集	三国尋常高等小学校	
00009	冊子	1924 年 12 月 25 日	自発教育案と其の実現 三好得恵著	三好得恵	
00010	冊子	1923 年 4 月 18 日	自由教育厳正批判 明治教育社（発行所 啓文社書店）	明治教育社	
00011	冊子	1924 年 5 月 21 日	吉良信之著 ダルトンプランの学的基礎と最近の経験 天地書房発行	吉良信之	
00012	綴	1947 年 4 月 7 日	職員会記録 三国部青年学校	三国部青年学校	
00013	綴	1944 年 12 月 9 日	昭和十九年二月九日施行 福井師範学校青年部長加藤竹雄委員 昭和十九年視察会紀要	三国部青年学校	
00014	冊子	1910 年 12 月 10 日	尋常小学 話シ方ト綴り方 巻ノ五 第三学年前期 友田 剛著	友田剛	
00015	冊子	1918 年 7 月 1 日	小学児童 第二巻第七号	国産奨励会	
00016	綴	1917 年 12 月	三国尋常小学校々規	三国尋常高等小学校	
00017	綴	1907 年 9 月	明治四十一年九月編 三国町誌	三国北尋常小学校	
00018	一紙	1873 年 12 月	下等小学校六級卒業証（修齊小学）	修齊小学	村井捨蔵

番号	形態	年月日（西暦）	資料名	差出人作成者	宛名
00019	一紙	1874 年 3 月	下等小学校五級卒業証（修齊小学）	修齊小学	村井捨蔵
00020	一紙	1874 年 6 月	下等小学校四級卒業証（修齊小学）	修齊小学	村井捨蔵
00021	一紙	1874 年 6 月	下等小学校三級卒業証（修齊小学）	修齊小学	村井甚吉
00022	一紙	1874 年 9 月	下等小学校二級卒業証（修齊小学）	修齊小学	村井甚吉
00023	一紙	1876 年 7 月 31 日	小学世話方辞令	敦賀県	坂井周七
00024	一紙	1898 年 3 月 25 日	尋常小学校卒業証書（三国尋常高等小学校）	三国尋常高等小学校	村井敬三
00025	一紙	1894 年	授業料領収証（三国小学校）	三国小学校	村井甚平
00026	一紙	1874 年 12 月	下等小学校壱級卒業証（修齊小学）	修齊小学	村井甚吉
00027	一紙	1896 年 3 月 25 日	尋常小学校第二学年修業証書（三国尋常高等小学校）	三国尋常高等小学校	村井敬三
00028	一紙	1895 年 3 月 25 日	尋常小学校第一学年修業証書（三国尋常高等小学校）	三国尋常高等小学校	村井敬三
00029	一紙	1897 年 3 月 25 日	尋常小学校第三学年修業証書（三国尋常高等小学校）	三国尋常高等小学校	村井敬三
00030	一紙	1907 年 3 月 6 日	学籍名簿訂正届（三国高等小学校生徒）	大家さき	三国高等小学校長
00031	一紙	1909 年 2 月 23 日	病気看護ニ付休業届（三国尋常高等小学校生徒）	明珍安太郎	三国尋常高等小学校室山校長
00032	一紙	1907 年 3 月 2 日	卒業式案内状（三国高等小学校）	三国尋常高等小学校	保護者
00033	冊子	1924 年 3 月 25 日	力一ぱい 創刊号	三国尋常高等小学校自発教育後援会	
00034	冊子	1924 年 7 月 23 日	力一ぱい パーカースト女史来校号 自発教育研究会	自発教育研究会	
00035	一紙	1959 年 7 月 3 日	三好先生追悼の辞	発起人代表左渡均	
00036	一紙	1929 年 4 月 1 日	推薦状（本会代議員ニ推薦ス）三好慶治	三国尋常高等小学校カ行会	三好慶治
00037	一紙	1915 年 1 月 21 日	修了証 三好慶治	三国尋常高等小学校長三好得恵	三好慶治
00038	一紙	―	尋常科第五学年学級経営案 東組担任訓導 藤井重治	藤井重治	
00039	一紙	―	国民道徳ヲ振作シ以テ・・・・小学教育ニ・・・風夜奮励努力セヨ		
00040	一紙	1871 年 9 月 27 日	三国郷学世話方辞令		内田平三郎
00041	一紙	1872 年 11 月 25 日	郷校創立ニ付内田平三郎追賞状	足羽県参事村田氏寿・足羽県権参事千本久信	内田平三郎
00042	一紙	1906 年 4 月 8 日	三国南尋常小学新築ニ付学務委員祝辞	学務委員亀田喜八	
00043	一紙	1875 年 3 月	下等小学校二級卒業証（修齊小学）	修齊小学	村井捨蔵
00044	一紙	1879 年 11 月 29 日	龍翔小学校学資差出ニ付木盃下賜状 石川県	石川県	坂井周七
00045	一紙	1879 年 10 月 20 日	龍翔小学校学資差出ニ付誉状 石川県	石川県	村井甚平

番号	形態	年月日（西暦）	資料名	差出人作成者	宛名
00046	一紙	1896 年	授業料領収証（三国町役場）	三国町役場	村井甚平
00047	一紙	1875 年 6 月 17 日	種痘済証 種痘医栗山玄達	栗山玄達	村井芳松
00048	一紙	1889 年 8 月 3 日	坂井郡第壱番小学校会議員当選状	三国町長山田原心	坂井周七
00049	冊子	1895 年	自明治廿八年四月 至明治廿九年三月 学校家庭通告簿 三国尋常高等小学校尋常科第二学年生	三国尋常高等小学校	村井敬三
00050	冊子	1894 年	自明治廿七年四月 至明治廿八年三月 学校家庭通告簿 三国尋常高等小学校尋常科第一学年生	三国尋常高等小学校	村井敬三
00051	一紙	1897 年	授業料領収証（三国町役場）	三国町役場	村井甚平
00052	一紙	1945 年 7 月 8 日	式辞（坂井連合国民義勇隊結成式）	福井地区司令官儀峨徹二・県会議員 梅田長平・坂井聯合隊長 久保義隆	
00053	綴	―	和漢書目録原簿自一門 至四門	私立三国図書館	
00054	綴	―	和漢書目録原簿自五門 至十門	私立三国図書館	
00055	綴	―	寄託和漢目録原簿 自一門 至四門	私立三国図書館	
00056	綴	―	寄託和漢書目録原簿 自五門 至十四門	私立三国図書館	
00057	綴	1906 年 5 月 31 日	自明治三十九年 至昭和十七年 小学校一覧表	三国南国民学校	
00058	綴	1940 年	（坂井郡教育会総会関係）昭和 18. 16. 17 年度予算 昭和 16. 15 年度決算 坂井郡教育会々則	坂井郡教育会	
00059	一紙	1943 年 9 月 1 日	領収証（書籍）	三国警察署長	三国図書館理事磯田利治
00060	綴	―	（大日本教育会坂井郡分会歳入歳出関係）	大日本教育福井県支部	坂井郡副分会長恩地政右衛門
00061	綴	1944 年	（福井県教育会寄附金関係）（昭和拾九年 福井県教育会寄附者名簿 坂井郡教育会　福井県教育会寄附金集計表昭和 19 年等）差出人大日本教育会福井県支部 宛名坂井郡分会長	大日本教育福井県支部	坂井郡分会長
00062	綴	1946 年 5 月 15 日	新教育指針 学校長用 新教育指針 4 分冊 附録 マッカーサー司令部発 教育関係指令 三国部青年学校	文部省	
00063	綴	1931 年	参観者名簿 三国尋常高等小学校	三国尋常高等小学校	
00064	一紙	1948 年 7 月 11 日	福井県震災状況一覧図 昭和二十三年七月十一日現在		
00065	綴	1944 年 4 月 17 日	昭和十九年四月職員会記録 三国部青年学校	三国部青年学校	
00066	綴	―	記録 教育後援会	教育後援会	